



## 2025年8月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年4月4日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社マルマエ

コード番号 6264 URL <https://www.marumae.com/>

代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）前田 俊一

問合せ先責任者（役職名）管理本部長（氏名）下舞 毅 TEL 0996-68-1140

半期報告書提出予定日 2025年4月11日 配当支払開始予定日 2025年4月17日

決算補足説明資料作成の有無：有

決算説明会開催の有無：有（機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 2025年8月期第2四半期（中間期）の業績（2024年9月1日～2025年2月28日）

（1）経営成績（累計）（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年8月期中間期	3,911	91.7	952	—	944	—	664	—
2024年8月期中間期	2,040	△51.9	△78	—	△134	—	△101	—

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年8月期中間期	52.48	—
2024年8月期中間期	△8.06	—

### （2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年8月期中間期	13,141	7,586	57.7
2024年8月期	11,464	7,163	62.5

（参考）自己資本 2025年8月期中間期 7,586百万円 2024年8月期 7,163百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年8月期	—	10.00	—	20.00	30.00
2025年8月期	—	15.00	—	—	—
2025年8月期（予想）	—	—	—	15.00	30.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2025年8月期の業績予想（2024年9月1日～2025年8月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,600	60.0	1,600	922.2	1,500	—	1,065	—	84.16

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（中間期）

2025年8月期中間期	13,053,000株	2024年8月期	13,053,000株
2025年8月期中間期	390,706株	2024年8月期	399,162株
2025年8月期中間期	12,656,174株	2024年8月期中間期	12,644,608株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると断定する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当中間決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 中間財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 中間貸借対照表 .....	4
(2) 中間損益計算書 .....	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	8
(重要な後発事象の注記) .....	8

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当中間会計期間におけるわが国経済は、雇用環境・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調が見られたものの、米国政策の不確実性や地政学的なリスクの高まりにより、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社の主な販売分野である半導体分野では、ロジックファウンドリやDRAM向けの投資が続くなか、当社の半導体分野停滞の原因となっていた顧客の過剰在庫の解消傾向が開始しました。その結果、2024年9月以降、消耗品の受注が急回復し、また、新規顧客からの受注も順調に推移しました。FPD分野におきましては、G8 OLE D向けの設備投資が継続しており、暫くは継続する見通しを持っております。その他分野では、生産能力の余力がないこともあって目新しい動きはありませんでした。

費用面におきましては、受注の増加に伴い材料費や外注加工費などの変動費が増加しました。また、増産に向けた人員の拡充を行ったことから労務費も増加しました。なお、受注の増加に伴って棚卸は増加いたしました。工場の稼働率の上昇により、受注損失引当金及び棚卸資産の評価減は減少いたしました。なお、2025年3月4日に発表いたしましたM&Aに関する費用等につきましては、第3四半期から移行する連結決算に織り込まれる見込みであります。

これらの結果、当中間会計期間の経営成績は、売上高が3,911百万円(前年同期比91.7%増)、営業利益は952百万円(前年同期は78百万円の営業損失)、経常利益は944百万円(前年同期は134百万円の経常損失)、中間純利益は664百万円(前年同期は101百万円の中間純損失)となりました。

なお、当社は精密部品事業のみの単一セグメントであるため、セグメントごとの記載を省略しております。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ①資産、負債及び資産の状況

##### (資産)

前事業年度末に比べ、1,677百万円増加し13,141百万円となりました。主な内容は、現金及び預金が685百万円、電子記録債権が475百万円、受取手形及び売掛金が296百万円、仕掛品が260百万円増加し、その他流動資産が89百万円減少したこと等によるものであります。

##### (負債)

前事業年度末に比べ、1,254百万円増加し5,554百万円となりました。主な内容は、長期借入金が806百万円、未払法人税等が330百万円、その他流動負債が82百万円、1年内返済予定の長期借入金が79百万円増加したこと等によるものであります。

##### (純資産)

前事業年度末に比べ423百万円増加し7,586百万円となりました。主な内容は、配当金253百万円の支払いに対し、中間純利益664百万円の計上により利益剰余金が411百万円増加したこと等によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は、57.7% (前事業年度末は62.5%) となりました。

#### ②キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末と比べ685百万円増加し、3,713百万円となりました。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、507百万円(前年同期は411百万円の獲得)となりました。これは主に、増加要因として、税引前中間純利益944百万円、減価償却費433百万円、その他流動負債の増加73百万円、減少要因として売上債権の増加772百万円、棚卸資産の増加262百万円等によるものであります。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、456百万円(前年同期は308百万円の使用)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出451百万円等によるものであります。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は、631百万円(前年同期は540百万円の使用)となりました。これは主に長期借入れによる収入1,200百万円、長期借入金の返済による支出313百万円、配当金の支払額252百万円等によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当中間期の業績は当初想定に対して、主に半導体分野の好調に伴い改善傾向で推移いたしました。結果、2025年3月4日に開示いたしました、「業績予想の修正に関するお知らせ」にありますとおり上方修正いたしました。通期の業績につきましては、市場環境に不透明な部分が残ることから現時点における通期の業績予想に変更はしていません。なお、2025年3月4日に開示いたしました、「KMアルミニウム株式会社の株式の取得(子会社化)に関するお知らせ」にありますとおり、当社は2025年8月期第3四半期決算より連結決算を開示する予定で取り組んでおります。本株式の取得にあたり、KMアルミニウム社の2025年4月～2025年8月の5か月分の損益計算について2025年8月期の連結損益計算書にて連結する予定であります。連結業績予想につきましては、算出でき次第お知らせいたします。

## 2. 中間財務諸表及び主な注記

## (1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年8月31日)	当中間会計期間 (2025年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,028,196	3,713,606
受取手形及び売掛金	918,641	1,215,134
電子記録債権	673,175	1,149,036
商品及び製品	21,767	20,735
仕掛品	771,309	1,031,468
原材料及び貯蔵品	33,635	37,110
その他	128,943	39,910
貸倒引当金	△3,343	△4,971
流動資産合計	5,572,325	7,202,032
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,665,664	1,619,903
構築物(純額)	102,689	97,142
機械及び装置(純額)	2,638,932	2,652,495
車両運搬具(純額)	7,753	5,776
工具、器具及び備品(純額)	15,445	20,790
土地	788,067	788,067
リース資産(純額)	17,586	15,355
建設仮勘定	434,081	492,342
有形固定資産合計	5,670,220	5,691,875
無形固定資産	16,489	17,267
投資その他の資産	205,180	230,215
固定資産合計	5,891,889	5,939,358
資産合計	11,464,215	13,141,390
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	274,997	241,230
1年内返済予定の長期借入金	596,030	675,590
未払法人税等	—	330,393
受注損失引当金	28,700	15,500
株式報酬引当金	12,000	12,000
その他	436,344	518,822
流動負債合計	1,348,071	1,793,535
固定負債		
長期借入金	2,863,520	3,670,000
退職給付引当金	70,691	75,253
資産除去債務	1,069	1,069
その他	17,575	15,093
固定負債合計	2,952,856	3,761,416
負債合計	4,300,928	5,554,951

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年8月31日)	当中間会計期間 (2025年2月28日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,241,157	1,241,157
資本剰余金	1,963,384	1,964,301
利益剰余金	4,481,880	4,893,031
自己株式	△523,134	△512,052
株主資本合計	7,163,287	7,586,438
純資産合計	7,163,287	7,586,438
負債純資産合計	11,464,215	13,141,390

## (2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)	当中間会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)
売上高	2,040,280	3,911,407
売上原価	1,793,511	2,564,634
売上総利益	246,768	1,346,772
販売費及び一般管理費	325,762	393,783
営業利益又は営業損失(△)	△78,993	952,988
営業外収益		
受取利息	83	1,175
為替差益	3,004	4,176
受取保険金	3,329	2,145
その他	2,583	2,820
営業外収益合計	9,000	10,318
営業外費用		
支払利息	10,901	11,856
減価償却費	53,267	6,571
その他	133	741
営業外費用合計	64,303	19,169
経常利益又は経常損失(△)	△134,296	944,137
特別利益		
固定資産売却益	66	—
特別利益合計	66	—
特別損失		
固定資産除却損	0	—
特別損失合計	0	—
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(△)	△134,229	944,137
法人税、住民税及び事業税	1,633	304,621
法人税等調整額	△33,980	△24,711
法人税等合計	△32,346	279,909
中間純利益又は中間純損失(△)	△101,882	664,228



## (3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)	当中間会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(△)	△134,229	944,137
減価償却費	470,229	433,308
貸倒引当金の増減額(△は減少)	135	1,628
受注損失引当金の増減額(△は減少)	△12,900	△13,200
株式報酬引当金の増減額(△は減少)	6,000	12,000
退職給付引当金の増減額(△は減少)	5,549	4,562
受取利息及び受取配当金	△83	△1,175
受取保険金	△3,329	△2,145
支払利息	10,901	11,856
為替差損益(△は益)	△2,469	△3,141
固定資産売却損益(△は益)	△66	—
固定資産除却損	0	—
売上債権の増減額(△は増加)	△57,289	△772,354
棚卸資産の増減額(△は増加)	58,745	△262,602
仕入債務の増減額(△は減少)	7,249	△33,767
未払消費税等の増減額(△は減少)	9,112	40,918
その他の流動資産の増減額(△は増加)	94,241	△5,680
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△20,688	73,328
その他	△26,759	△5,979
小計	404,348	421,694
利息及び配当金の受取額	83	1,175
利息の支払額	△10,695	△14,984
保険金の受取額	3,329	2,145
法人税等の還付額	17,563	99,446
法人税等の支払額	△3,062	△1,633
営業活動によるキャッシュ・フロー	411,567	507,843
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△307,177	△451,611
有形固定資産の売却による収入	66	—
無形固定資産の取得による支出	△1,795	△4,996
差入保証金の差入による支出	△5	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△308,911	△456,607
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	—	1,200,000
長期借入金の返済による支出	△310,916	△313,960
配当金の支払額	△227,086	△252,801
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△2,204	△2,205
財務活動によるキャッシュ・フロー	△540,207	631,033
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,469	3,141
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△435,082	685,410
現金及び現金同等物の期首残高	3,496,246	3,028,196
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,061,164	3,713,606

## (4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

前中間会計期間(自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)及び当中間会計期間(自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)

当社は、精密部品事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象の注記)

(株式取得による企業結合)

当社は、2025年3月4日開催の取締役会において、以下のとおり、日本産業パートナーズ株式会社が管理・運営その他関与するファンドなどから、KMアルミニウム株式会社(以下、KMAC社)の株式100%について、当社が設立した特別目的会社(SPC)を通じて取得する株式譲渡契約を締結することについて決議いたしました。また、2025年3月4日付けで株式譲渡契約を締結し、当該譲渡契約に基づき2025年4月8日付で同社の全株式の取得を予定しております。

## 1. 企業結合の概要

## (1) 被取得企業の名称及び事業内容

被取得企業の名称	KMアルミニウム株式会社
事業の内容	アルミニウムのインゴット・ビレット・スラブ・合金の製造・販売 高純度アルミニウムの地金の製造・販売

## (2) 企業結合を行った主な理由

当社の営業分野として、半導体分野、FPD分野、その他分野があり、現在は特に半導体分野での成長を目指しております。また、当社は現在進めている中期事業計画において、半導体製造装置用の消耗品を伸ばす戦略を掲げておりますが、先端分野装置部品の受注獲得では一定の成果を出せている一方、レガシー半導体製造装置部品については、チェンジコントロール(CC)やコピーイグザクトリイ(CE)等の業界ルールもあり、先駆企業のシェアを崩せずにいる状況でした。

KMAC社は、福岡県大牟田市に本社を置き、九州三井アルミニウム工業株式会社を源流とする企業であり、現在は主に半導体スパッタリングターゲット用の超高純度アルミニウム製品、アルミ電解コンデンサー用の高純度アルミニウム製品、低圧铸造鋳物製品、アルマイト製品、鍛造材等の製造・販売を行っております。超高純度アルミニウム製品は、純度99.99%以上の地金やスクラップを自社で溶解等を行い、顧客の要求する純度(99.999%以上)に精製したうえで铸造し販売しています。アルミニウムの精製作業には高度な技術が必要であり、KMAC社は高度な精製技術を保有し、それが高い世界シェアにつながっております。また、アルミニウムの半導体用スパッタリングターゲットは、レガシー半導体の製造にも多く使用されることから、当社の半導体分野の戦略である消耗品の拡充とレガシー分野の補完の双方を両立できることとなります。さらに、KMAC社の低圧铸造鋳物製品は、半導体製造エッチング装置の搬送系及びプロセスチャンバーに使用され、高いシェアを保持しております。

KMAC社のアルマイト製品も、主に半導体製造のエッチング装置部品に使用される表面処理(特殊硬質アルマイト)です。KMAC社の特殊硬質アルマイトは、エッチング装置の消耗品等に多く使用されて顧客評価も高いことから、KMAC社の生産能力を上げることで高い成長性が見込まれます。

鍛造材につきましては、主に上記アルマイト製品の母材(製品加工及びアルマイト処理前素材)として使用され長寿命を実現する他、半導体CVD工程では表面処理をせずとも高い耐食性を示すことから、顧客のコスト低減に寄与しています。

なお、KMAC社は近年、事業の見直しをおこなっており、売上高は大きくても付加価値の低い素材事業(アルミニウム合金ビレット・スラブの製造受託等)については受注を縮小しております。これらのように、KMAC社の事業は弊社の半導体分野と親和性が高く、共に成長する関係を築けるものと考えて株式の取得を行う事としました。

## (3) 企業結合日

2025年4月8日(予定)

## (4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

## (5) 結合後企業の名称

変更はありません。

## (6) 取得した議決権比率

100.0%

## (7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が設立した特別目的会社(SPC)を通じて現金を対価とする株式取得により議決権の100%を取得したことによるものであります。

## 2. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得価額につきましては第三者算定機関による評価等を総合的に勘案して決定してまいります。

## 3. 主な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等(概算額) : 90百万円

## 4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

## 5. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。

## 6. 支払資金の調達方法

当社が100%出資する新設SPC(特別目的会社)「株式会社KMX」において以下の銀行借入により調達する予定であります。

	タームローンA	タームローンB	コミットメントライン
借入人	株式会社KMX:当社が100%出資するSPC(特別目的会社)		
借入先	株式会社鹿児島銀行		
契約日	2025年3月21日		
借入日	2025年4月8日(予定)		
借入金額	4,850,000,000円	4,850,000,000円	極度額600,000,000円
資金用途	KMアルミニウム株式会社の株式購入資金及び付随する資金		KMアルミニウム株式会社の運転資金
金利	基準金利+スプレッド(注)		
最終返済期日	2032年1月末日		
返済方法	元金均等	期日一括	随時返済
担保	KMアルミニウム株式会社が保有する不動産(土地・建物)(株式取得後予定)		
保証	当社及びKMアルミニウム株式会社(株式取得後予定)の連帯保証		

(注)借入金の一部は金利スワップを設定する予定であり、これにより金利は実質的に一部固定化されることとなります。

## 7. その他

本株式取得により、当社は2025年8月期第3四半期より連結決算に移行する予定であります。